

終末期の緩和ケアは?

岡山で県民公開講座 市民ら理解深める



終末期の患者支援について
考えた県民公開講座

の松本陽子理事長、み
とりの現場を取材し
ているフォトジャーナ
リスト國森康弘さんの
講演もあった。

(水嶋佑香)

緩和ケアについて考
える県民公開講座(県、
岡山大大学院保健学研
究科主催)が3日、岡
山市北区駅元町の岡山
コンベンションセンター

で開かれ、市民ら約
420人が終末期の患
者支援の在り方につい
て理解を深めた。
年200人以上を在
宅医療でみとっている
「めぐみ在宅クリニック」
(横浜市)の小澤
竹俊院長が基調講演。
家族や医師ら支援する
側が心掛けるポイント
として、患者が伝えた
NPO法人愛媛がん
サポートおれんじの会

いことを受け止める▽
苦しみをキャッチする
▽生きる支え 療養場
所や受ける医療の希望
を把握する」といった
ことを挙げた。

「苦しむ人は自分の
ことを理解してくれ
る人がいるとうれし
い」と強調し、「患者
から実現不可能なこ
とを求められて無力
感にさいなまれること
もあるが、逃げないこ
とが一番大切」と話した。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。